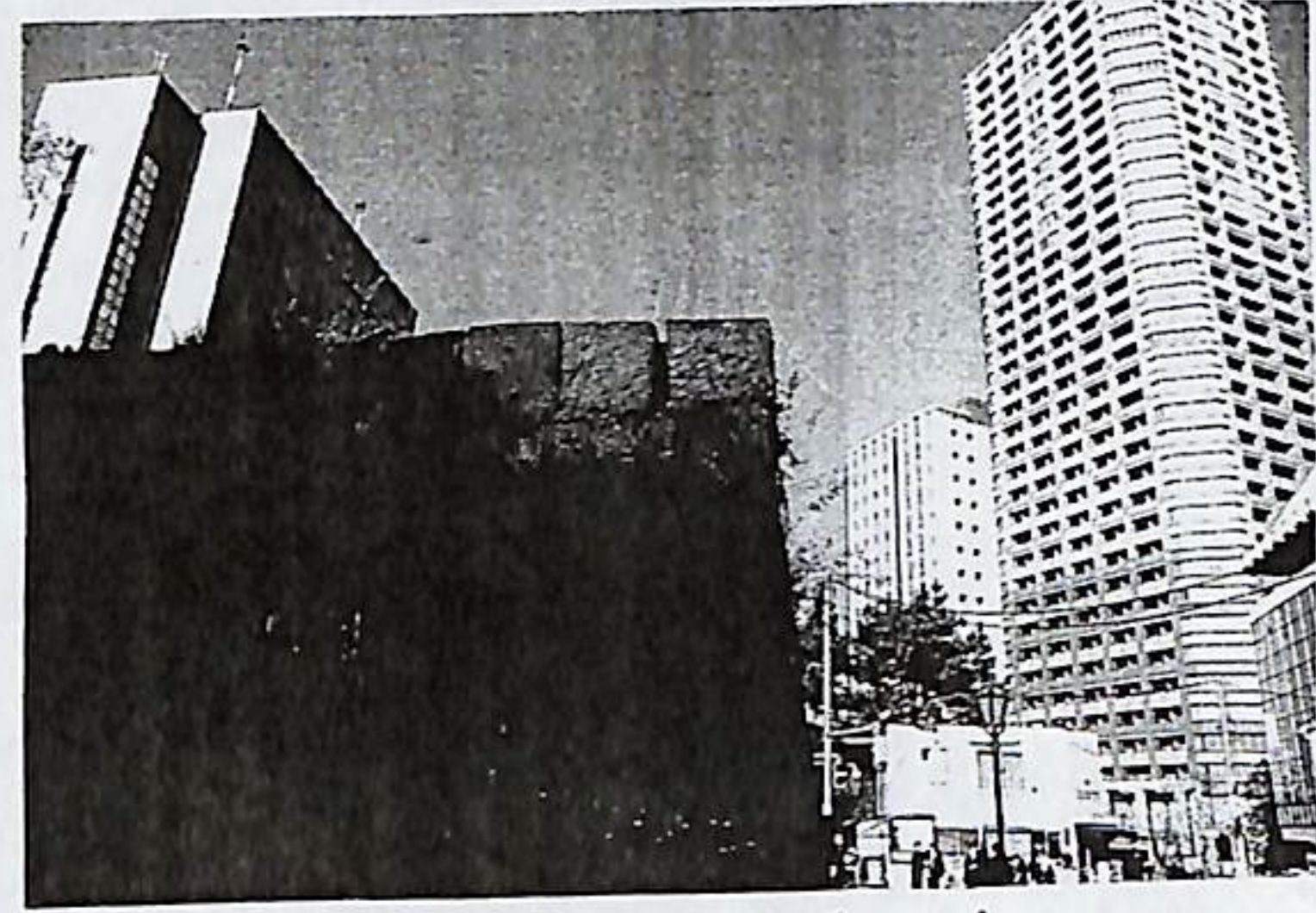


城を歩く会 <sup>6</sup>3月定例会

平成 23-3-17 <sup>6-13</sup>

大江戸線で春日から新宿方面を訪ねる  
 ご案内資料 ① <sup>ゆきせん</sup>礪川公園と牛込御門を歩く

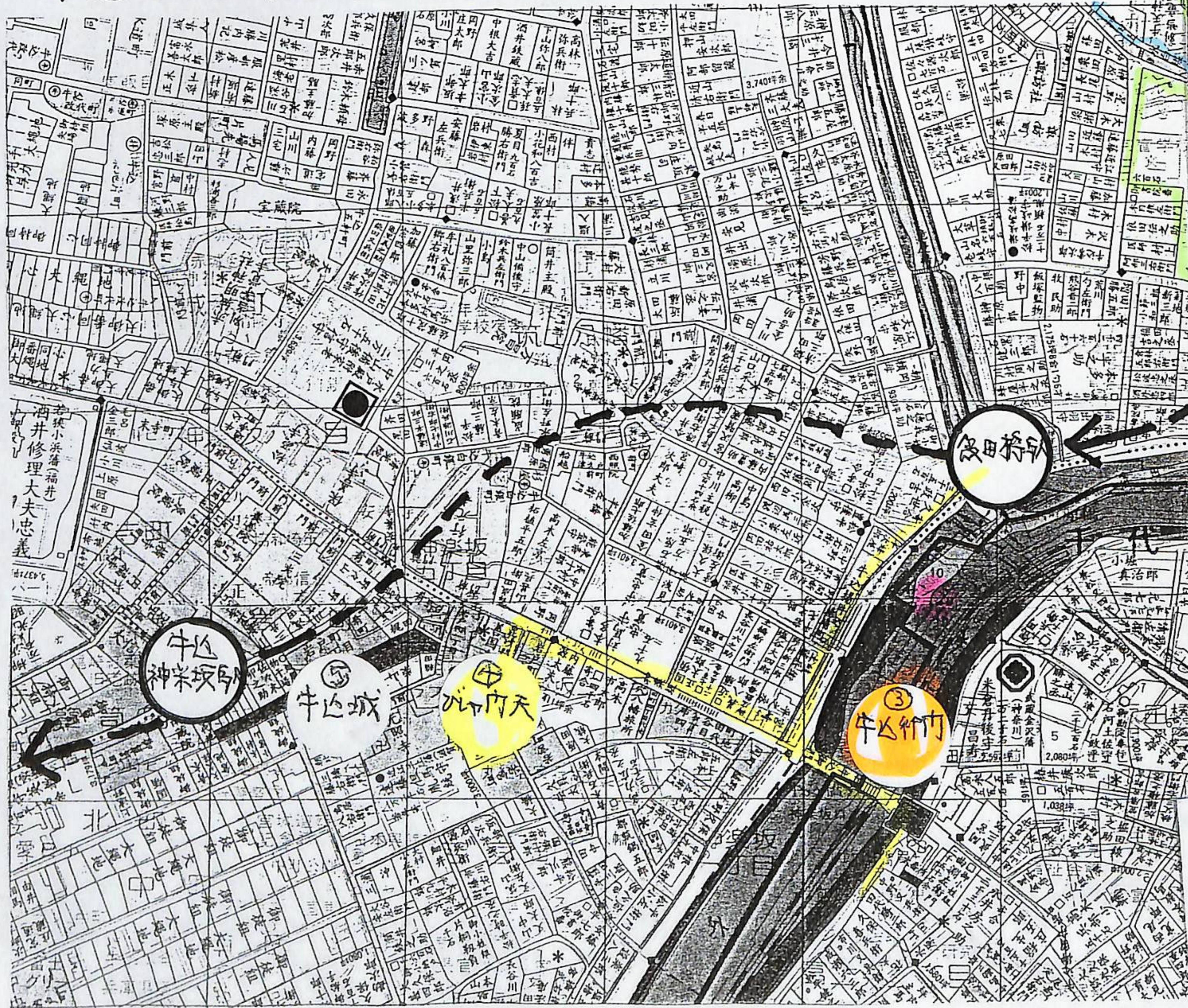
山岸弘明



牛込御門城内垣



周回外堀



本日前半の案内コース  
 後半は保科澄師が担当します



外堀の道



春日局  
 4歳のとき、前田光高の家臣だった父が、本願寺の害に出兵して秀吉に討死された。母方の親戚である公家の家に引き取られ、書や歌、香などの教養を身につけた。



春日局と春日通り



礪川公園



シブクセーター  
 大空斎所建



# 礪川公園

## 1) 礪川 (れきせん) 公園

- ① 礪は小石のことで小石川公園と同意。往昔の小石川は目白台と本郷台の水を集めて流れた小石の多い谷川で細い支流が何本もあった
- ② 江戸時代は御三家水戸徳川家上屋敷庭園「後樂園」の一部で、「野の景」の先端が春日通りまで延びていた。礪川公園の低地は小石川支流の川原であった
  - \*水戸藩邸は、現在の東京ドーム、ドームホテル、後樂園遊園地、中央大学および小石川後樂園の全域およそ10万坪におよんだ。小石川藩邸は寛永6年徳川家康の11男頼房が3代将軍家光から拝領、小石川後樂園は頼房が築き、2代光圀が華麗な大名庭園に仕上げた。
- ③ 礪川公園は昭和後期、区立公園として誕生、高台部分の滝が公園のシンボルになっている
- ④ 東京都戦没者霊園、説明看板
  - \*この霊園はさきの大戦において尊い犠牲となられた東京都の戦没者をおなぐさめするとともに平和を願う都民の強い決意を表すために建てられたものです

## 2) 春日通りと春日局

- ① 春日局像解説「文京区と春日局」
  - 文京区春日の地名は春日局が乳母として仕えた3代将軍徳川家光より拝領した土地に由来し、昔は春日殿町と呼ばれていました。春日局の菩提寺麟祥院が湯島にあり、文京区は春日局と歴史的に深い縁があります。昭和64年1月より1年間NHK大河ドラマ「春日局」が放映されました
- ② 大河ドラマ「江」と春日局。間もなく3代将軍家光の乳母として登場

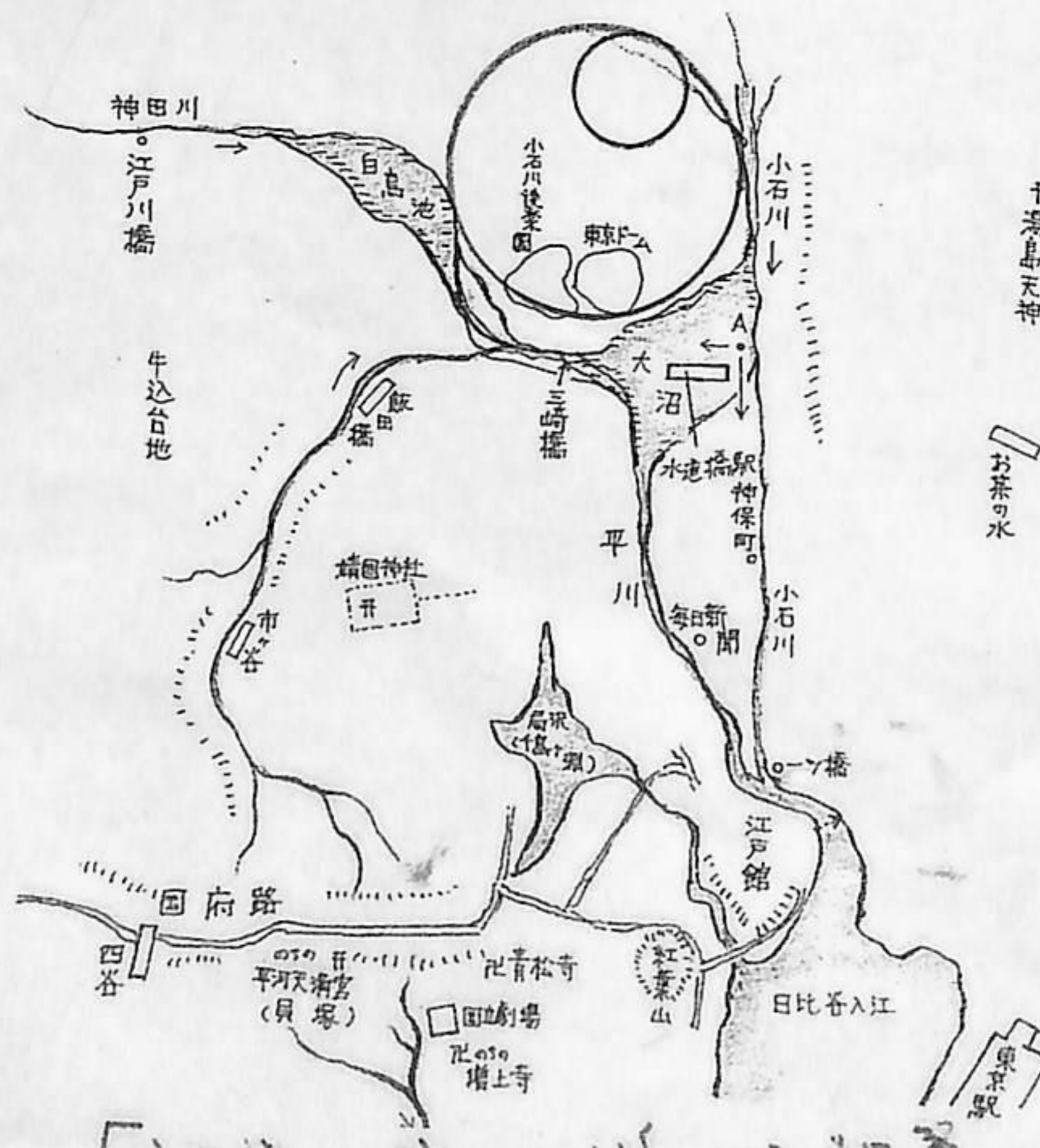
# 牛込御門

- 1) 飯田橋の地名起源 徳川家康の江戸入府時、地元の飯田喜兵衛が案内役を勤めたことによる
- 2) JR中央線と飯田橋駅 中央線は江戸城外堀跡を御茶ノ水、水道橋、飯田橋、市ヶ谷、四谷を走る。東側は旧江戸城内、大名、旗本屋敷街で、西側は城外で武家地と町人町が混在した
  - \*飯田橋駅は大正はじめ外堀脇を埋め立て構築したもので昭和年代までは前面に満々と濠水を蓄えた外堀が広がったがセントラルプラザの建設で消滅した
- 3) 牛込揚げ場碑 (絵は安藤広重の「牛込御門外」)
  - \*江戸時代には海からここまで船が上ってきた。全国各地から運ばれてきた米、味噌、醤油、酒、材木などがこの岸で荷揚げされたのでこの辺は揚げ場と呼ばれた。昭和47年に都の市街地再開発事業として、ビル建設がけいていされ、飯田濠はうめたてられることになったが、濠として保存してほしいという都民の強い要望からビルの西側に飯田濠の一部を復元するとともに、以前水面があったことにちなんで焼 230m のせせらぎを造った。外濠の水はこのせせらぎの地下水路を通して昔のとおり神田川に注いでいる。昭和59年3月 東京都



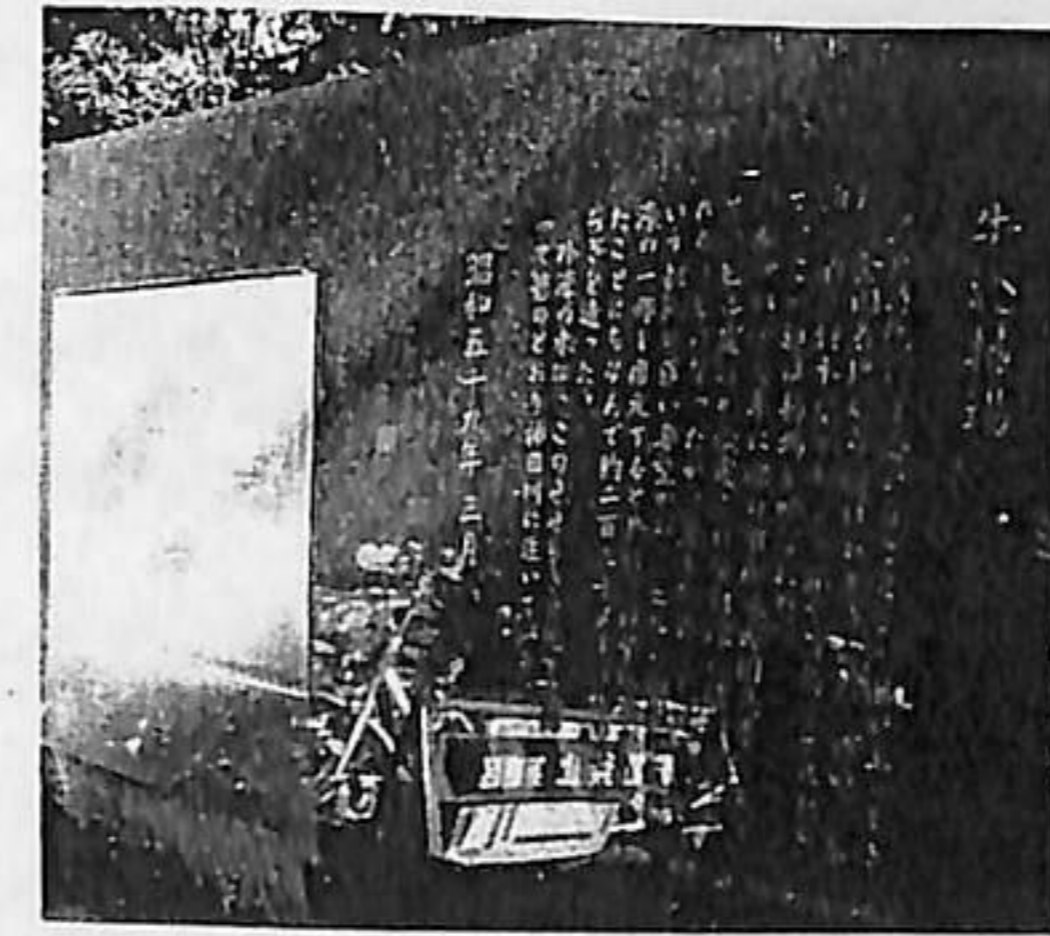
春日局像 ↓

春日通り

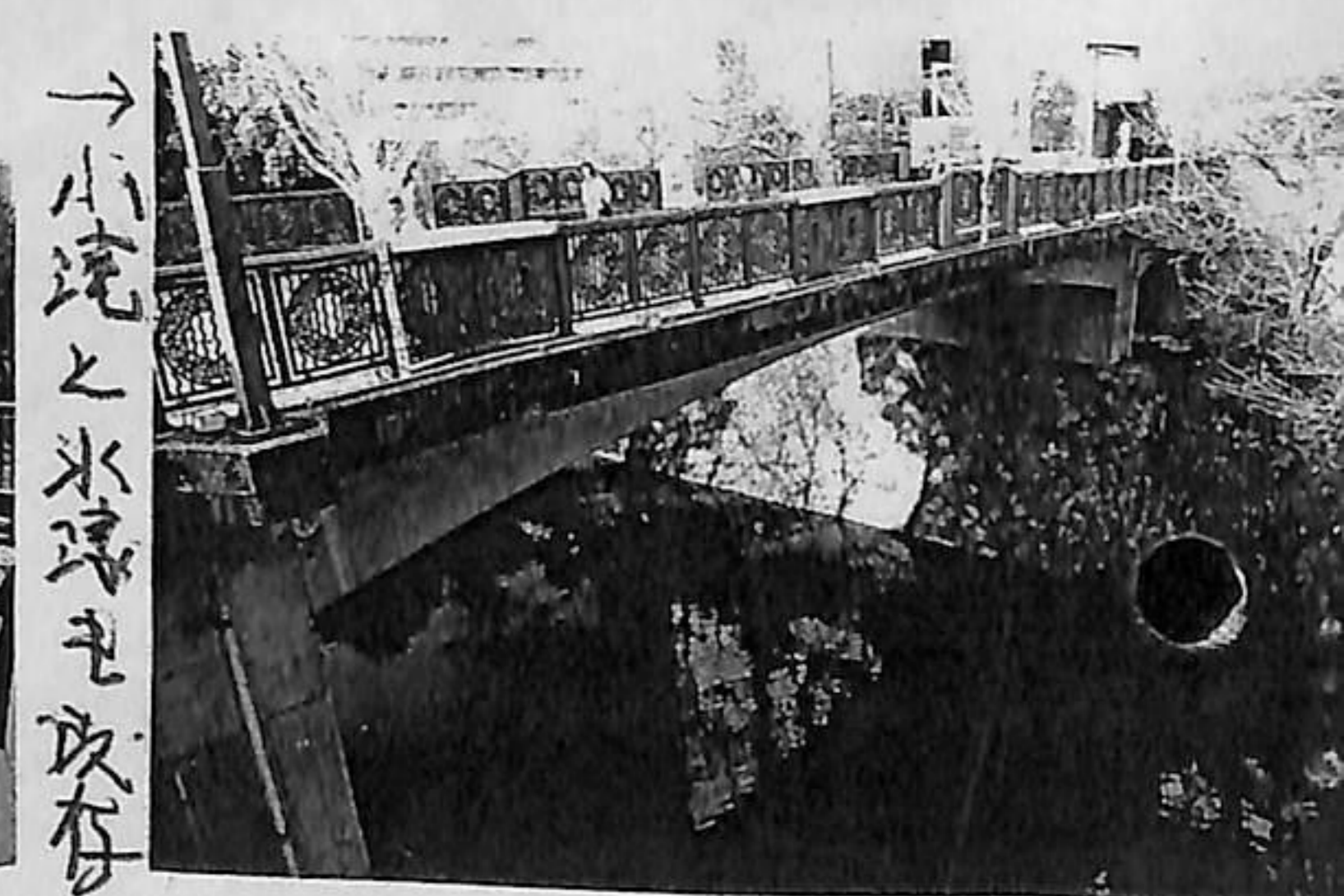


往古の江戸の川

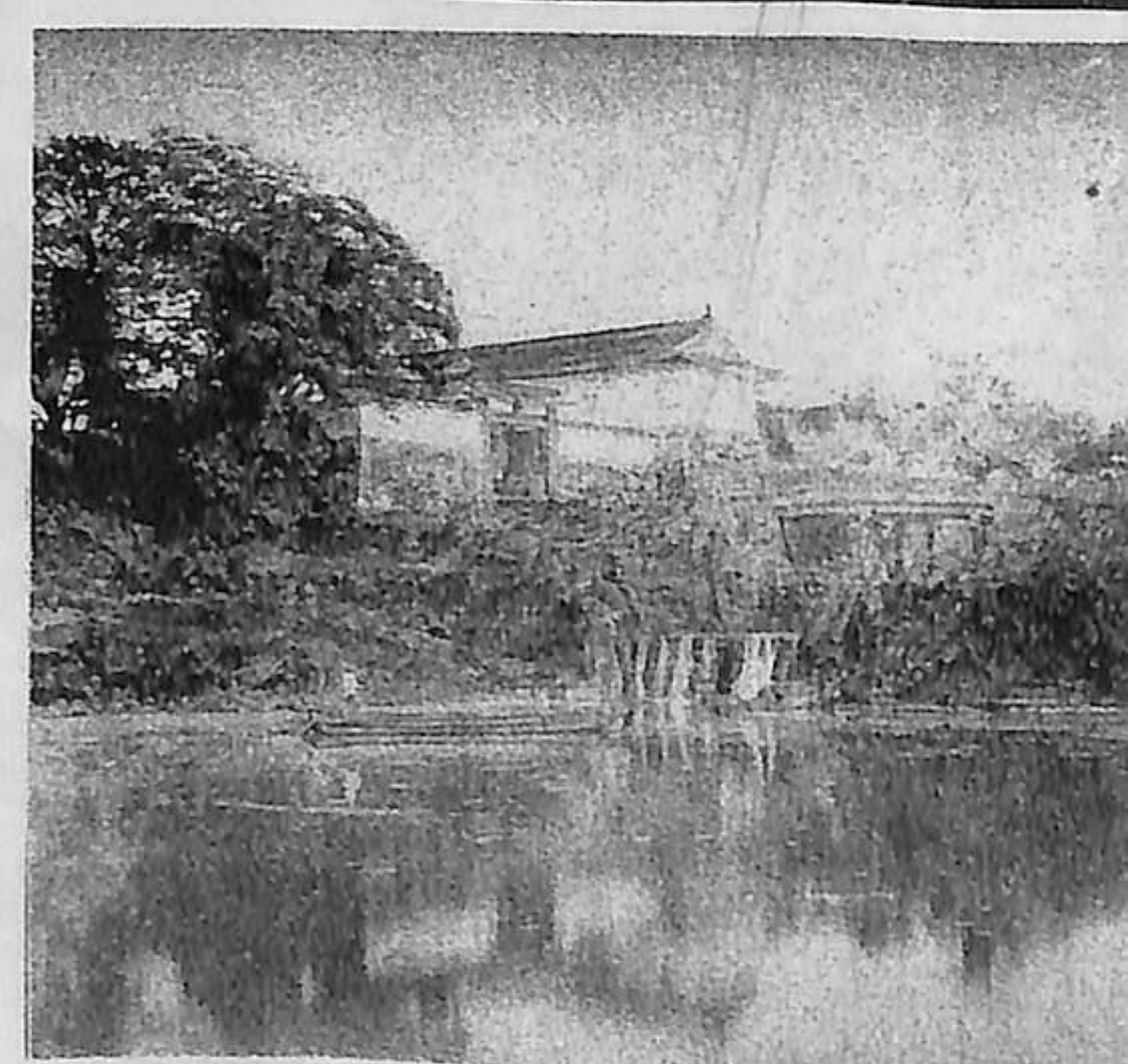
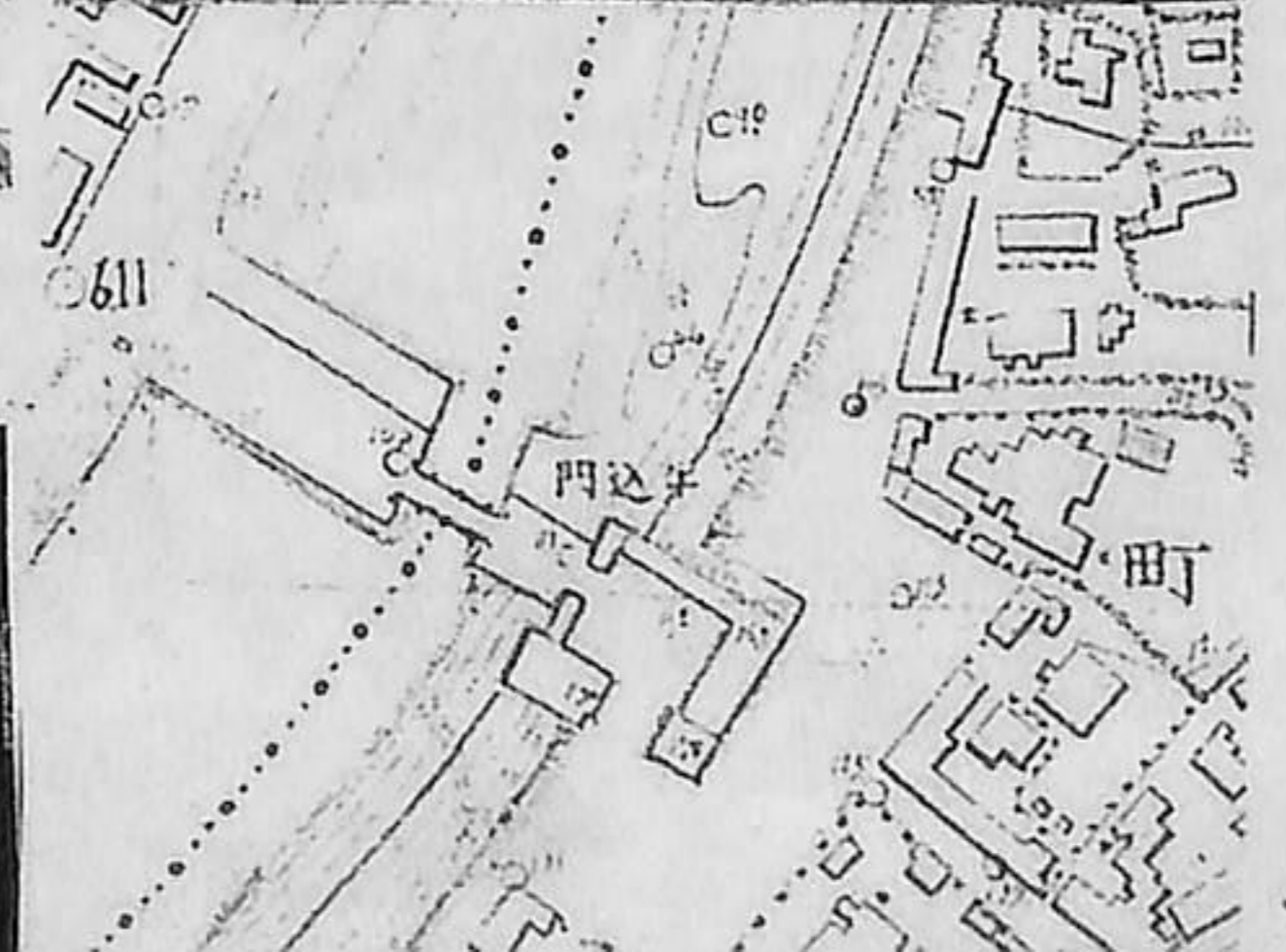
- 4) 千代田区町名由来板 富士見2丁目
  - \*江戸のなごりである外堀面したこの界限は武家の屋敷が立ち並ぶ地域でした。当時武家地には正式な地名がなく、道すじに土手四番町、裏四番町通りなどと呼称が付いていただけでした。富士見という町名が生まれたのは明治5年のことで、九段坂を上ったあたりから眺める富士山の姿が実にすばらしいことからつけられた名前です
- 5) 牛込の地名のおこり
  - 牛込の地名は往昔、武蔵野原で牛を飼育した牧に由来、牛込台地が広がった
  - \*江戸時代はじめの寛永の総構え工事で平河を開いて外堀を築いた時、牛込、神楽坂と城内番町、九段を結ぶ江戸城外郭門を構築した
- 6) 牛込御門橋
  - 旧牛込御門の橋台、上流市谷側からの濠水を橋台の石堤でせきとめ、真ん中の木橋の下でオーバーフローさせて次の濠へ流れ落とした。
- 7) 牛込御門枅形
  - 寛永13年蜂須賀忠英建造、史跡保存枅形門角石に松平阿波守銘を刻む
  - 駅前交差点は枅形跡、両側に門垣が現存している。内枅形右折れ、高麗門、渡り櫓門、大番所で構成、当時の全景を史跡看板の古写真で偲ぶ。現存石垣を回り、石材やその表面加工、切り込みハギ、打ち込みハギの混在、コーナー部の算木積み、角石などに注目
  - \*御門警護は3千石以上旗本が3か年交代で勤務した、番士3人など合計20~30人、弓、鉄砲、長柄槍などを常備した
- 8) 外堀と土塁
  - 寛永11~13年、3代将軍家光が江戸城の総仕上げ工事として江戸城を取り囲む外郭として構築、市ヶ谷、牛込橋間は2番組、上杉定勝、松平光重、仙石政俊、水谷勝隆が担当、堀幅44間4尺、80m、深さ3間3尺、6m、土塁は堀削土を盛り上げ、高さ水面およそ20m、上部幅およそ10m、水叩き、叩き土居。当初白壁を回したが享保の改革で松の木に改めた
- 9) 昼食解散 集合は 時 分 神楽坂途中の毘沙門天 (善国寺) 境内 以上



牛込物垣碑



松平阿波守 銘角石



牛込御門古写真

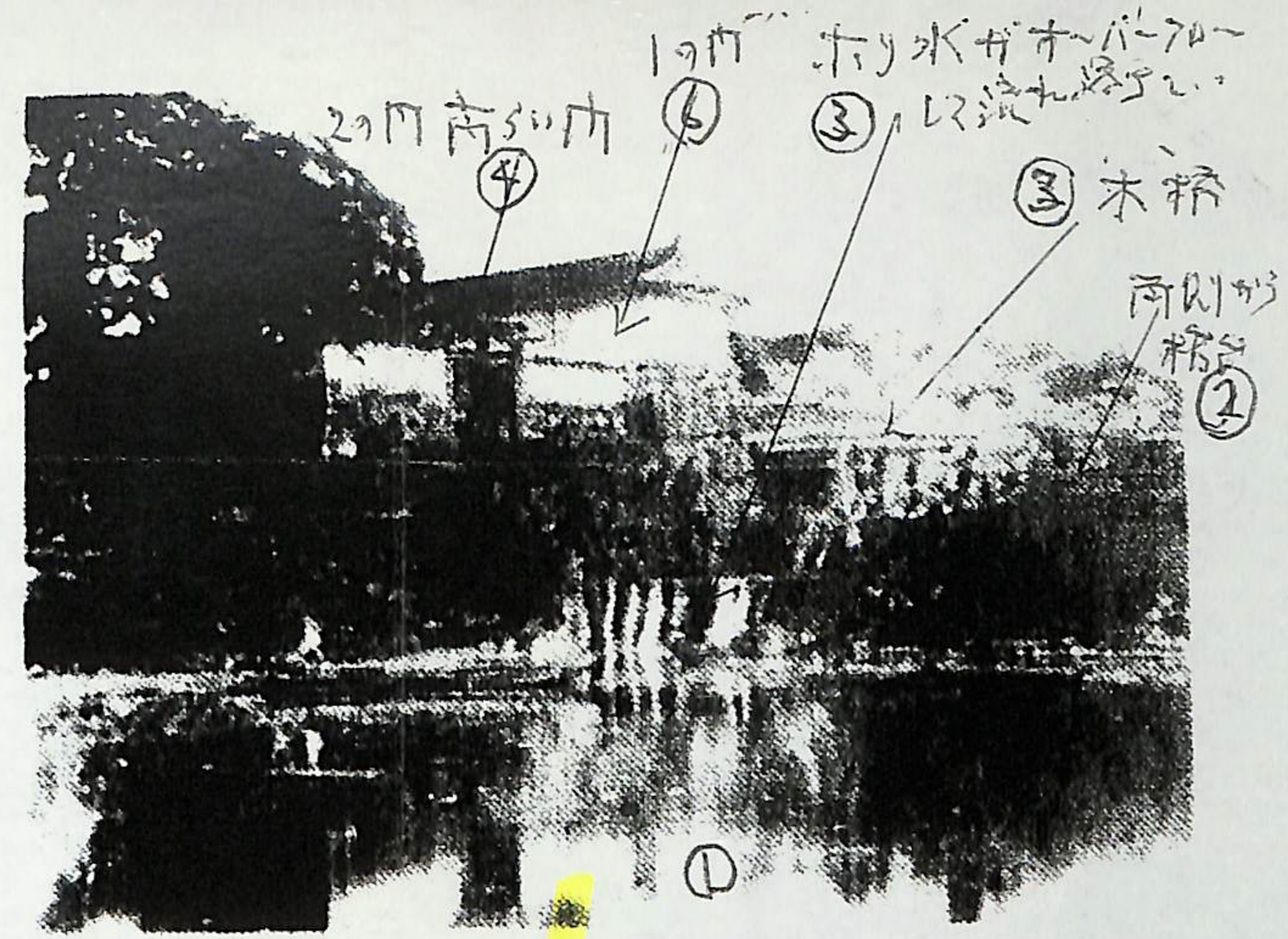
明治10年代の御門

史跡 江戸城外堀跡 牛込見附(牛込御門)跡

正面とうしろの石垣は、江戸城外郭門のひとつである牛込見附の一部です。江戸城の外郭門は、敵の進入を発見し、防ぐために「見附」と呼ばれ、足元の図のように二つの門を直角に配置した「升形門」という形式を取っています。この牛込見附は外堀が完成した寛永13年(1636)に阿波徳島藩主蜂須賀忠英(松平阿波守)によって石垣が建設されました。これを示すように石垣の一部に「松平阿波守」と刻まれた石が発見され、向かい側の石垣の脇に保存されています。

江戸時代の牛込見附は、田安門を起点とする「上州道」の出口といった交通の拠点であり、また周辺には楓が植えられ秋の紅葉時にはとてもみごとであったといわれています。その後昭和35年には石垣の大部分が撤去されましたが、左図のように現在でも道路を挟んだ両側の石塀や橋台の石垣が残されています。この見附は江戸城外堀跡の見附の中でももっともよく当時の面影を残しています。足元にはかつての牛込見附の跡をイメージし、舗装の取り入れています。

千代田区



牛込橋

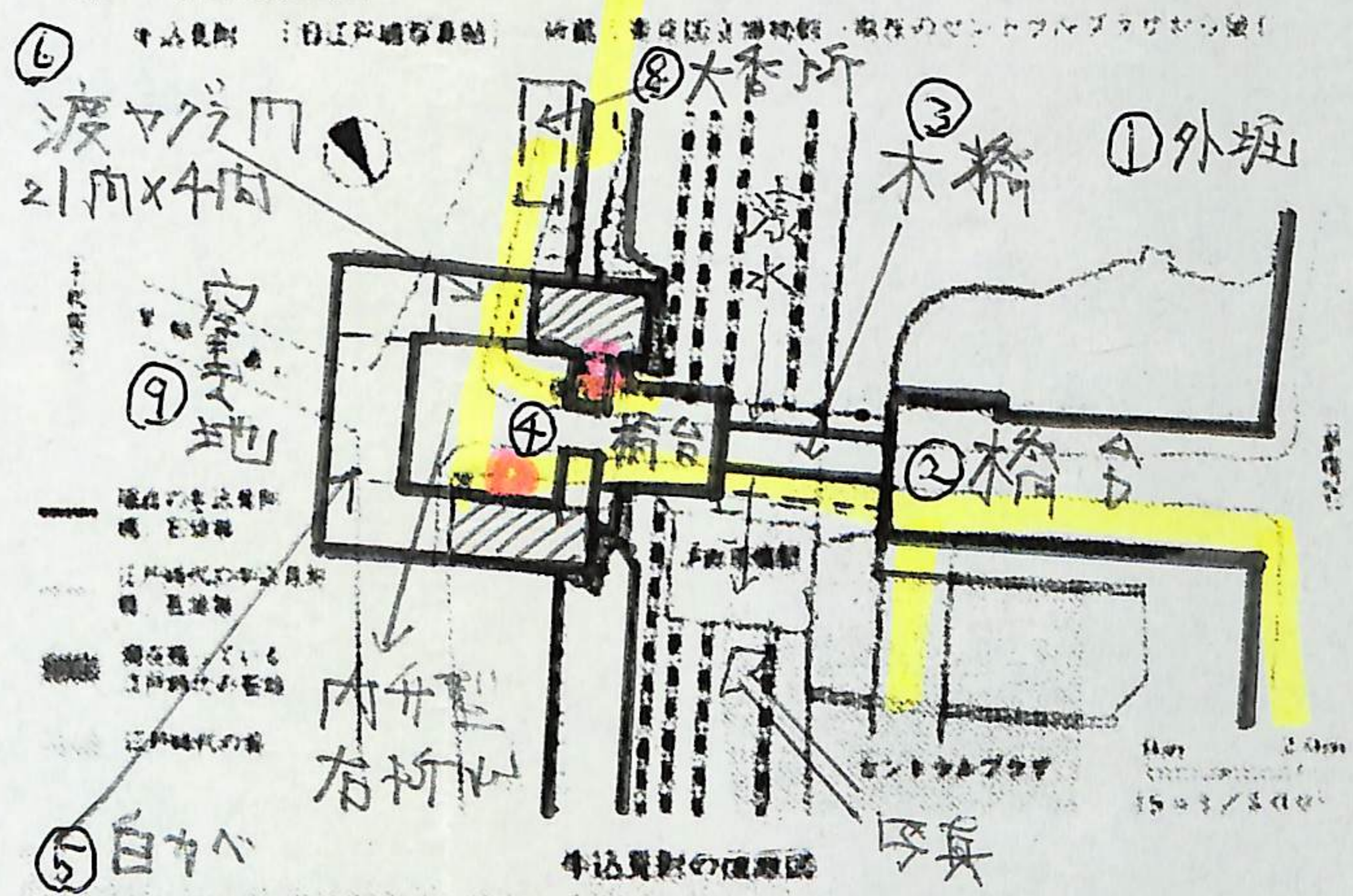
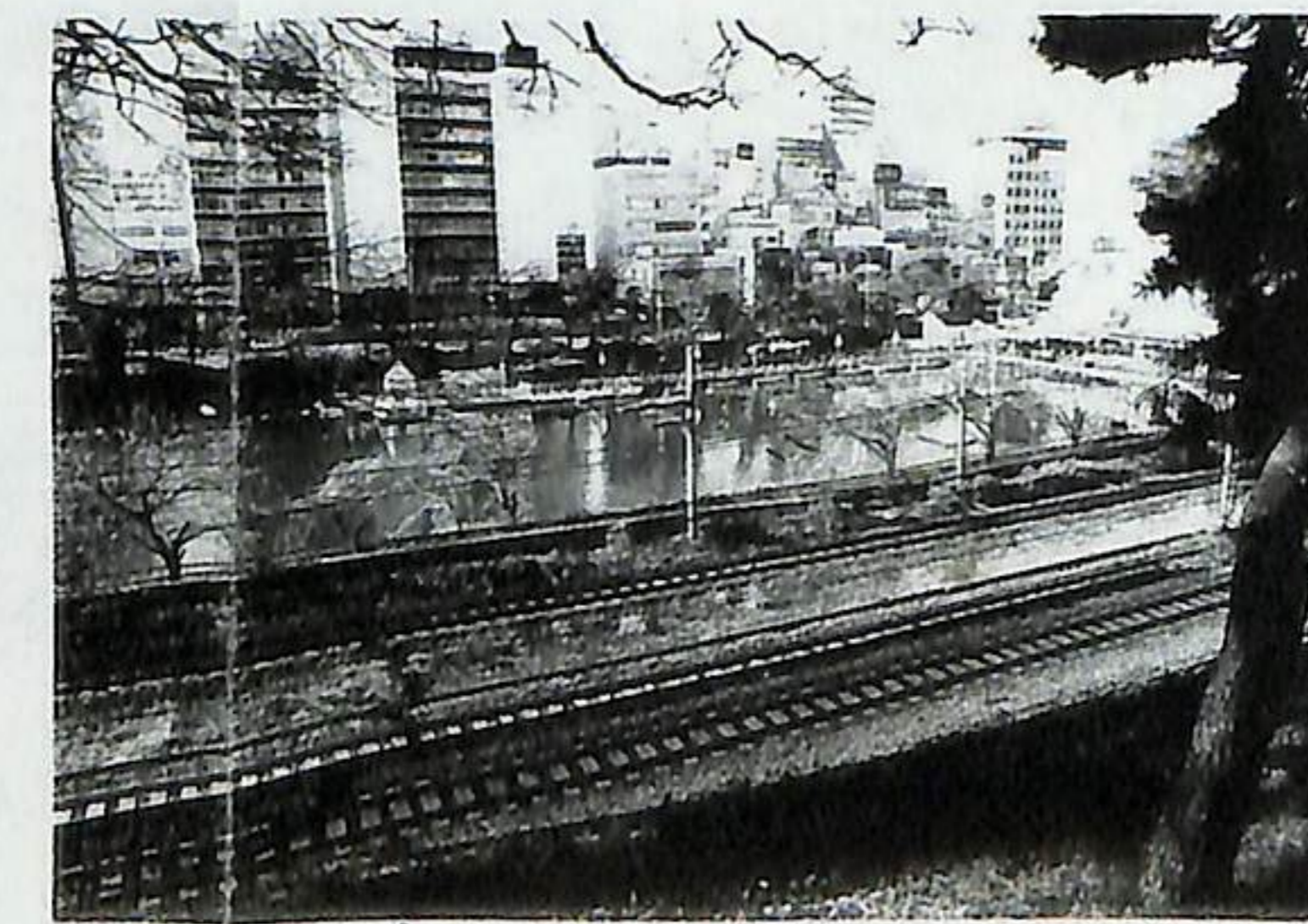
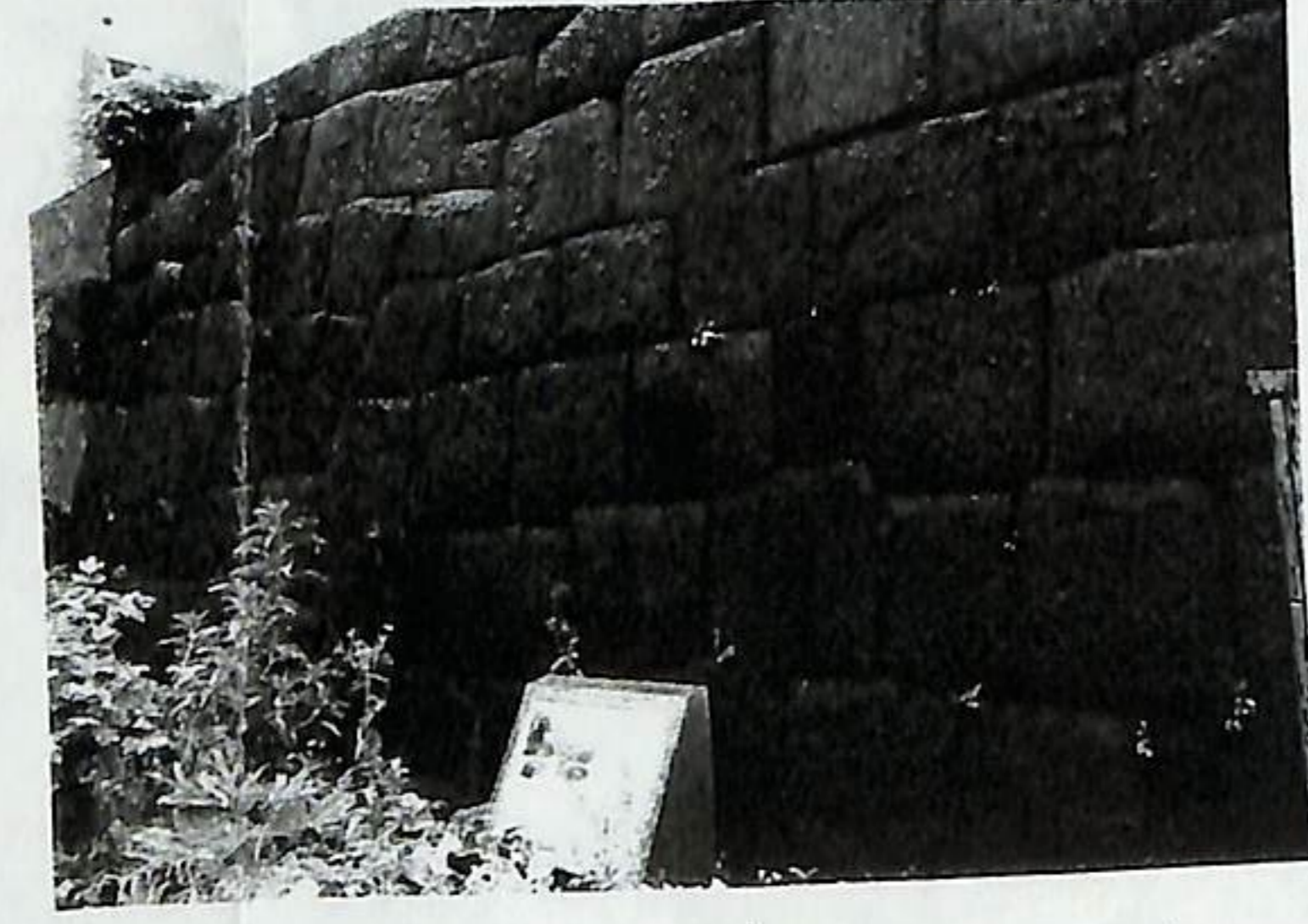
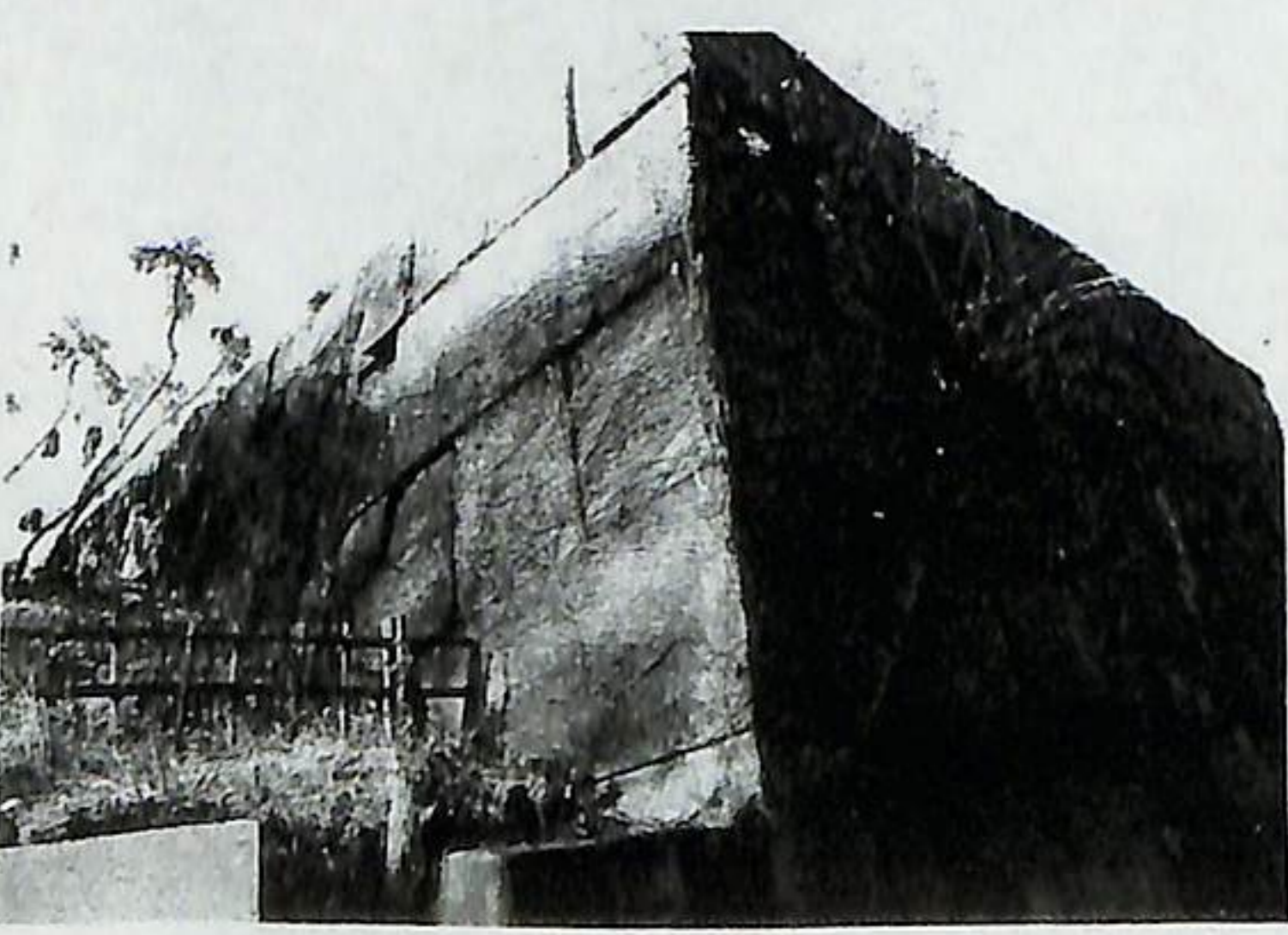
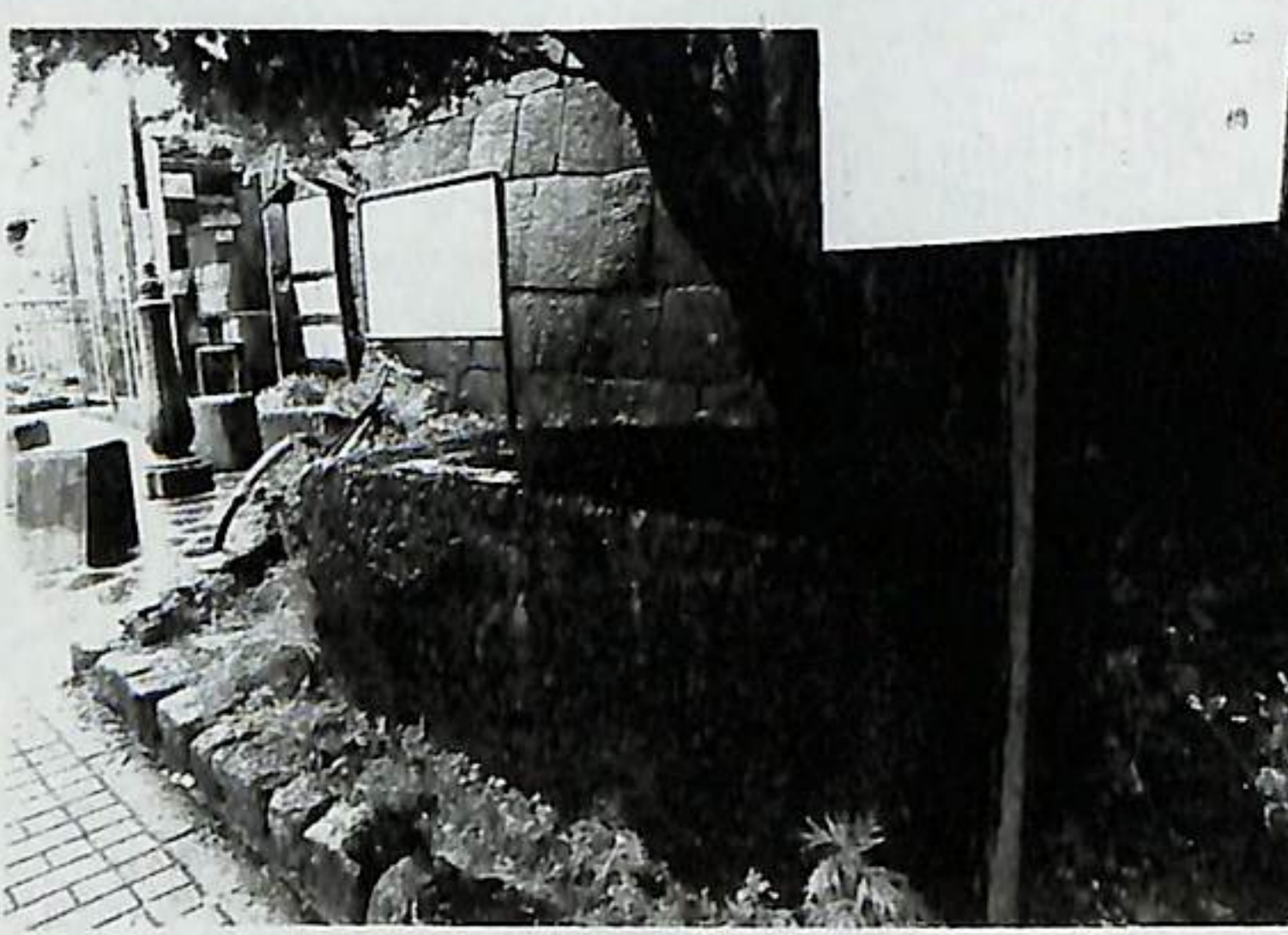
この橋は、「牛込橋」といいます。御府内備考によれば、江戸城から牛込への出口にあたる牛込見附(牛込御門)の一部をなす橋で、牛込口とも呼ばれた重要な交通路でした。また、現在の外堀になっている一帯は堀が開かれる前は広大な草原で、その西側は「番町方」(千代田区側)と「牛込方」(新宿区側)と呼ばれてたきさんの武家屋敷が建ち並んでいたと伝えられています。

最初の橋は、寛永十三(一六三六)年に外堀が開かれた時に阿波徳島藩主の蜂須賀忠英によって造られました。その後、その後の災害や老朽化によって何度も架け替えられています。

現在の橋は、平成八年三月に完成したもので、長さ四六メートル、幅一五メートルの鋼橋です。

平成八年三月

千代田区教育委員会



- 牛込見附の構成=内升形右折れ
- ①(市ヶ谷側)外堀、(駅側)神田川へ
  - ②橋台(せき止めダム=長く突き出す)
  - ③木橋(短い、下はオーバーフロー落ち口)
  - ④2の門高麗門
  - ⑤石垣(門垣、石塀とも)上は白漆喰塀
  - ⑥渡り櫓門(1階が通路、2階は射場)
  - ⑦ガンギ坂(上り石段)
  - ⑧大番所(番士警備)
  - ⑨周辺空き地、続き石垣、周辺土塁

- 石垣の積み方
- ①白い角石(かどいし)は瀬戸内小豆島産、3尺×3尺、長さ7尺-8尺の規格品
  - 黒石は伊豆石、面は正方形で奥に長い
  - ②コーナー部=算木積み、3つ石、2つ半石、目地の通った切り込みハギ(一部布積み)
  - 野ヅラに近い打ち込みハギは積み替えかも
  - ③表面、細かい削(ハツリ)仕上げ、軽い江戸切り(詳しくでない)
  - ④天端石。地下部分、根石などは不明
  - ⑤接川部と橋台は川底から最大高さ10m?
  - ⑥積みなおしがあり当時のまとはいえない
- 石積み技術最盛期のていねいな作り。